



袋井あやぐも学園
袋井市立袋井中学校だより



— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成

令和5年1月11日発行

幼小中一貫カリキュラムにより自主（Iの力）と（Weの力）を育成する学園

3学期が始まりました

新年明けましておめでとうございます。13日間の冬休みが終わり、1月6日から3学期が始まりました。本年も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるように進めていきます。始業式は感染症対策のため、リモートで行いました。

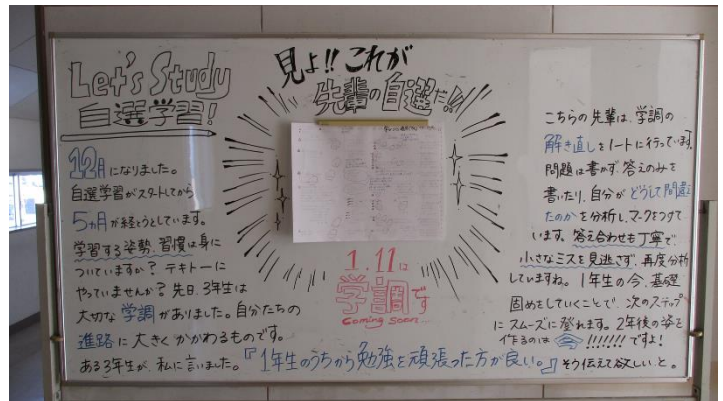
< 3学期始業式 校長式辞より（一部抜粋） >

「一年の計は元旦にあり」の言葉のように、皆さんも今年目標を立て、それに向かって一歩一歩自分の力で歩いてほしいと思います。小さなことでもいいので、自分でやり遂げたという経験をもてる年にしてほしいです。今年も袋井中学校の先生方はみんな、全校生徒の皆さん一人一人の夢や目標が達成できるよう応援しています。

3学期は、「自鍛」のステージから、「感謝と飛躍」のステージになります。今日は、最初に学習について話します。

これは、1年生の廊下にある掲示です。「見よ、これが先輩の自選だ」というものです。

皆さんの普段の授業の様子を見てみると、どのクラスもとても落ち着いて学習に臨んでいる姿が見られ、学校に訪問される方からはとてもいいですね、という言葉がいただいています。



しかし、その一方で先生方からは、生徒の皆さん全員が積極的に学習に臨んでいるかについては、少し不安な点が見られるとの声も聞かれます。

それはどういうことかということ、静かに座ってはいるが、主体的に考えているか、自分の考えをもっているか、友達の意見と自分の意見を比べて、自己の考えを振り返っているかなどです。これについて生徒の皆さんはどう感じますか?

私はまず自分で考えることを大切にしてほしい、そして学級内では、積極的に友達と意見を交わしてほしいと願っています。

それぞれの学習には、簡単な課題もあれば、難しい課題もあります。

現在は、インターネットという便利なツールにより、例えば皆さんが使っているタブレットで課題を検索することで答えを簡単に見つけることができる時代になりました。とても便利です。しかし、それが必ずしもよいことばかりでしょうか?

私は、それが必ずしも自分の学力につながるかは疑問だと捉えています。簡単な問いであっても、その答えを導き出す方法はいろいろなものがあるし、中には答えが一つではないものもあります。まずは自分で考えること、そしてその考えを教室内で出し合って答えを導き出していく過程（プロセス）を大切にしてほしいです。

ぜひ、脳みそに汗をかくくらい自分で考えていきましょう。そして、友達との意見交換を通して

考えを深めていきましょう。（「脳みそに汗をかけ」は、なるさわばしこさんが考案した造語です。）

そのためには、学級に自分の考えを自由に出せる雰囲気があることが条件となります。皆さんも「教室は間違えるところ」という言葉を聞いたことがあるでしょう。中には「何を今さらこの言葉」と思うかもしれませんが、しかし、中学生の皆さんは、周囲の目を気にしてなかなか自分の意見を言うのをためらう年代だからこそ、あえてこの言葉を皆さんに伝えます。間違えることは恥ずかしいと思うかもしれませんが、しかし、まず自分の考えを発すること自体が尊いことですし、たとえ発表が間違っているとしても、その間違いをもとに自分や友達の考えが深まり、それが本物の知識になります。

そして、それは家庭学習でも同様です。自選学習を重視しているのは、自分の力で取り組んで間違ったところを自分なりに分析して、それをもう一度解いて、自分のものにする事で確かな力をつけることができるからです。このホワイトボードには、このような学びにより基礎固めをしていくことで次にステップにスムーズに登ることができるというアドバイスが書かれています。

日々の授業、そして家庭学習において、まずは自分で考えてみることを重視してください。そして、わからないことはどんどん先生や友達に質問して行ってください。このような学習への姿勢はとても価値あることですし、皆さんも真似をしてほしいと思います。

次に礼儀と感謝について話します。



皆さんはこの方を知っていますか？ほとんどの生徒の人は知らないのではないのでしょうか？先生方は知っているかもしれませんが…。ヒントは、現在の浜松市出身の方で、天才的な技術者です。

この方は、本田宗一郎さんです。ホンダという二輪車や自動車を作る会社を一代で築き上げた人物です。浜松市天竜区二俣に本田宗一郎ものづくり伝承館がありますので、そこを訪れた人もいるかもしれません。

その技術者である本田宗一郎さんが「技術の根本は礼儀なんです。相手を尊重することからあらゆることが始まるんですよ」という言葉を本田学園の学生にいつも言っていたそうです。「きみたちは、自動車を修理する前に、お客さんの心を直してあげることが大切だ。それには礼儀正しく、心の豊かな人間にならなければいけない」「経営だって相手を尊重しない企業は絶対に伸びません」と。

これを学校に当てはめてみれば、学校生活の基本は礼儀です。学校生活で相手を尊重することを始めるとしたら、挨拶をきちんと行う、時間を守る、整理整頓をきちんと行う、他人を傷つける言動はしないなど、いろいろなことが連想されます。

学校生活も家庭生活も「人・もの・こと」とのかかわりによって成り立っています。令和4年度の締めくくりとなる「感謝と飛躍」のステージでは、礼儀そして感謝を意識していくことで、皆さん一人一人が飛躍していくことを願っています。以上でお話を終わります。

交通安全指導

始業式の後、全校生徒を対象に交通安全指導をリモートで行いました。特に横断歩道を渡る時の一時停止や歩道を通行する際のルールの確認を指導しました。いずれも命に関わるとても大切な内容です。御家庭においても、交通ルールやマナーについて御確認をお願いします。

本日のまとめ

- ①横断歩道を渡るときでもきちんと安全確認！！
- ②「交通事故は起こさない！」と思っただけではいけません。あなたが注意していても、起こりうる可能性があります。だからこそきちんと「止まる、見る、待つ」を行いましょう。
- ③歩道上は「歩行者優先」！



3学期こそ全校生徒で無事故、無違反を目指しましょう！！